

構造チェックリスト 壁式鉄筋コンクリート造

作成日 (年 月 日)

建築士事務所名		構造設計事務所名		
設計者名		構造担当者名		
工事名称		工事種別	新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>	
敷地位置		用途		
規模		地下階	地上階	
項目		適用条項	チェック項目	
1 荷重 及 び 外 力	固定荷重	令84	(特記事項のみ記入)	
	積載荷重	令85	室の種類 対象 床 小ばり 大ばり・柱 地震 備考	
			N/m ²	
			高架水槽 kN エレベーター kN× 基 冷却塔 kN× 基 広告塔 kN	
	特殊荷重	令83	*有、無	
	積雪荷重	令86 告示1455 行政規則	垂直積雪量 cm 単位荷重 20 N/m ² /cm 設計採用値 N/m ²	
	風圧力	令39 令82の5 令87	告示1388 告示1389 告示1793 (通)96	地表面粗度区分: I、II、III、IV Z ₀ = m Z _G = m α=
				基準風速 V ₀ = m/s ガスト影響係数 G _f =
		T Tc Rt	令88	I次固有周期 T= 秒 地盤種別による Tc= 振動特性係数 Rt=
		Z C ₀ k	令129の2の4	地域係数 Z= 標準せん断力係数 C ₀ = 塔屋水平震度 k=
Ai Ci		計算書該当ページ (p.) 特記事項		
土圧	令83	土圧を受ける壁に対し K ₀ =		
水圧	令83	地下水位 GL- m 設計採用水位 GL- m		
2 使用 材料	コンクリート	令72 告示1102	普通コンクリート F= N/mm ² 単位重量 γ= kN/m ³ 使用場所	
		令74 告示1450	F= N/mm ² 単位重量 γ= kN/m ³ 使用場所	
		令91 告示1462	F= N/mm ² 単位重量 γ= kN/m ³ 使用場所	
		令97	軽量コンクリート F= N/mm ² 単位重量 γ= kN/m ³ 使用場所	
	鉄筋	令90 告示2464	種別 使用よび径	種別 使用よび径
令96		SD295	SR235	
		SD345		
3 地盤 の 許 容 力 度 支 持 力	地盤調査	令93 告示1113	敷地内地盤調査 有 (深さ m)、*無 調査方法 () 支持層の土質 設計採用N値	
	許容応力度	令93 告示1113	基礎深さ GL- m 計算上の採用 Df= m 長期= kN/m ² 、短期= kN/m ² 地盤改良 有 (工法:)、無	
	くい仕様	令93 告示1113 (通)806 (通)2	くい種 最大軸径 cm 最大先端径 cm くい長 m 施工法	
			支持力 (最大径) 長期: kN/本 短期: kN/本 *引抜抵抗力 kN/本 負の摩擦係数検査 *有、無	
4 基礎	形式	令38 告示1347	独立基礎 <input type="checkbox"/> ベタ基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/>	
	偏心		偏心基礎の有、無 有の時の処理方法	
	異種	令38	異種基礎の併用 *有、無 (原則として異種基礎の併用は避ける)	
5 構 造 計 画	沈下	令38	沈下に対する検討 省略 <input type="checkbox"/> 即時沈下 <input type="checkbox"/> 圧密沈下 <input type="checkbox"/> 調査欄	
	適用範囲	告示1026 第1	地上階数5以下	
			軒高さ20m以下 (各階3.5m以下 (層間変形角及び保有水平耐力による緩和規定あり))	
	材料	告示1026 第2	コンクリートの設計基準強度はF _c 18以上	
	床版・屋根	告示1026 第5	RC造か剛性及び耐力をもった構造とする (保有水平耐力による緩和規定あり)	
	耐力壁の配置	令36の2 告示1026 第6	平面的、立体的に釣り合いよく配置されているか	
	増築予定		増築予定の *有、無 増築後 階 高さ= m	
エキスパンション	令81	エキスパンションジョイント: 有 (cm)、無 基礎: 一体、分離		
梁・床の変形計算	令36の2 告示1459	梁 D/L>1/10 床 t/Lx>1/30 片持床 t/Lx>1/10		
	令82	D/L≤1/10 (P.) t/Lx≤1/30 (P.) t/Lx≤1/10 (P.)		

令……建築基準法施行令 告示……国土交通省告示 (通)……建設省旧通達 大阪府内建築行政連絡協議会 編集 (社)大阪建築士事務所協会

2003年度版

(注) 1. 必要項目は書き入れを、選択形式のものは該当する箇所にチェック後○印を記入してください。
2. *印項目記入の際は、その内容を構造計算書に明記してください。

項目		適用条項	チェック項目					
6 計算方法		告示1026	許容応力度計算		特別な許容応力度計算		保有水平耐力	
7 耐力壁 の 強 度 と 配 置	階	告示1026 第1	地下階	階	階	階	階	
			ΣW(N)					
	量	告示1026 第6	Z W Ai β					
			X Σ2.5Aw+Σ0.7Ac					
			Y Σ2.5Aw+Σ0.7Ac					
			X Lω (cm/m ²)					
			Y Lω (cm/m ²)					
			Lω (cm/m ²)	20	15	15	12	12
	低減係数	α = t ₀ · ΣLω / Σ(t · Lω) = β = √(18/Fc) = (ただし β ≥ 1/√2)						
	Lω · α · β · Z							
Lω · 5								
判定								
8 構造 規定	壁厚	告示1026 第6	告示1026 第6 五イ表1にもとづく壁厚のチェック (構造計算による緩和規定の適用) ・有 ・無					
	縦筋、横筋の鉄筋比	告示1026 第6	告示1026 第6 五ロ表1にもとづく鉄筋比のチェック (構造計算による緩和規定の適用) ・有 ・無					
	壁梁のせい	告示1026 第7	告示1026 第7にもとづく壁ばりのチェック D ≥ 45cm (構造計算による緩和規定の適用) ・有 ・無					
9 二 次 設 計	層間変形角 (C ₀ =0.2時)	告示1026	X方向 / ≤ 1/2000 Y方向 / ≤ 1/2000					
	剛性率・偏心率	告示1026 第6	剛性率R _s X方向 (階) Y方向 (階) 偏心率Re X方向 (階) Y方向 (階) (最小値) (最大値)					
			Ds : 計算書該当ページ (P.) 最大値: X方向 (階)、Y方向 (階)					
	保有水平耐力	告示1026 第6	Fes : 計算書該当ページ (P.) 最大値: X方向 (階)、Y方向 (階)					
			Qun : 計算書該当ページ (P.) Qu : 計算書該当ページ (P.) Qu/Qunの最小値: X方向 (階) Y方向 (階)					

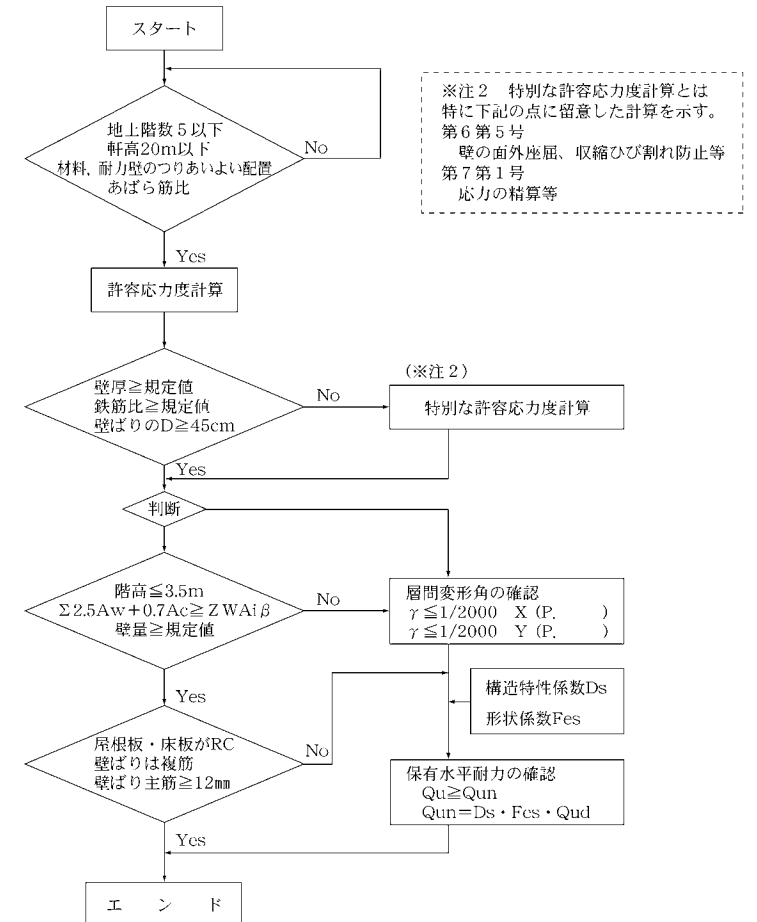
【記入方法】
 ・採用した計算ルートを記入し各方向毎に太線でたどること
 ・該当ページを各方向毎に記入する
 ・耐震設計指標値一覧の各項目を記入する

項目	方向	X	Y
Σ2.5Aw + Σ0.7Ac			
ZW Ai β (最小値)		(階)	(階)
Lω (cm/m ²)			
Lω · α · β · Z (cm/m ²) かつ			
Lω (cm/m ²)			
Lω (cm/m ²) - 5 (最小値)		(階)	(階)
層間変形角 (最大値)		(階)	(階)

層間変形角は、確認が必要な場合のみ記入

(※注1)

Aw, Ac : m²
w : N



※注2 特別な許容応力度計算とは特に下記の点に留意した計算を示す。
 第6第5号 壁の面外座屈、収縮ひび割れ防止等
 第7第1号 応力の精算等